

1 学年 第5学年

2 単元名 日本の水産業 ー魚はいつまで食べられるかー

3 単元設定の理由

- 本単元は、小学校学習指導要領第5学年の内容（1）「我が国の農業や水産業について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかわりをもって営まれていることを考えるようにする。」を受けて設定したものである。本単元で考えさせることは、我が国の農業や水産業の盛んな地域では、国民の主食である米をはじめ、食生活に欠かすことのできない野菜、果物、畜産物、水産物などを生産し、消費地に送り出すことにより、国民の食生活を支えているという食料生産の意味と我が国の農業や水産業に従事している人々が地形条件や気候条件などの自然環境に様々な働きかけをしたり生かしたりしながら生産を高める工夫や努力をしていることである。

また、同解説社会編には、内容の取扱いとして、（1）ウについては、「稲作のほか、野菜、果物、畜産物、水産物などの生産の中から一つを取り上げるものとする。」とされている。

本単元で水産業を取り上げた理由は、二つある。一つは、本学級の児童は、昨年度4年生の時に「大崎上島町のみかん作り」について学習しているからである。もう一つは、海に囲まれた地域の実態と現在の社会状況における水産物需要の拡大を考えた時に、水産物を取り上げるのが適切であると判断したからである。

最近、日本では魚離れが進んでいるといわれる。しかし、日本は、昔から多くの水産物を消費してきた国である。消費量は、世界的に見てもトップレベルである。児童の身の回りにも多くの水産加工品があり、毎日のように水産物を口にしている。我が国の食料生産を確保する上で、水産業の果たす役割は大きいといえる。

現在の水産業の状況は、国内自給率53%であり、多くの水産物を外国からの輸入で賄っている。また、漁獲量や就労者数の減少、燃料価格の高騰など多くの問題も抱えている。その中で、水産業に携わる人々は、水産基本計画を策定し、新技術の開発・普及、水産資源の管理・育成、漁港・漁場・漁村の整備など様々な取り組みをしている。生産を高めるためのこれらの工夫や努力を本単元の学習を通して、児童にとらえさせたい。

産業学習における私の授業の進め方は、今まで働く人の工夫や努力を考えさせることに重点を置きすぎていた。単元の学習過程の中に、働く人に直接ふれあう活動を取り入れてきたが、働く人の工夫や努力から何を考えさせるのか、何をつかませるのかを明確にしていなかった。そのため、共感的な理解にとどまっており、児童が身に付けた知識は、感覚的・経験的な知識であった。

そこで、本単元でどのような概念をつかませるのか、単元全体でつかませたい知識を構造化した。取り上げる事例も精選し、一つの事例から習得した知識を応用・活用して他の事例に転移して考えることができる単元構成とした。また、働く人の工夫や努力を目的と手段の関係（原因と結果の関係）でとらえることで、「生産量確保による利益追求」という経済の視点を入れた概念的知識をつかませるようにした。さらに、知識とともに問いも構造化し、原因と結果の関係を問う「なぜ」という問いを連続して追究する授業構成とした。

4 単元の目的

水産業の盛んな地域を事例として、日本の水産業についての概念的知識を「なぜ」という問いの連続的追究によって発見し、他の類似した社会的事象を説明することができる。

5 単元の到達目標

- ① 沖合・遠洋漁業の八戸港の学習を通して、概念的知識「技術改良、加工・流通の仕組みの整備・確立による生産量の増大、利益の追求」を発見できる。
- ② 概念的知識「技術改良、加工・流通の仕組みの整備・確立による生産量の増大、利益の追求」を使って、沿岸漁業の明石港について応用、説明できる。
- ③ 広島湾のかき養殖の学習を通して、概念的知識「資源の保護・育成、環境保全による生産量の増大、利益の追求」を発見できる。
- ④ 概念的知識「資源の保護・育成、環境保全による生産量の増大、利益の追求」を使って、大崎上島の海洋牧場について応用、説明できる。
- ⑤ 現在の漁港のようすの学習を通して、概念的知識「町づくり、人づくりによる利益の追求」を発見できる。

⑥ ①～⑤を通して，概念的知識「生産量確保，利益の追求」を発見できる。

6 単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	観察・資料活用 of 技能・表現	社会的事象についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ○ 我が国の水産業の様子に関心を持ち，それを意欲的に調べ，考えながら追究している。 ○ 国民生活を支えているわが国の食料生産について関心を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 働く人の工夫や努力を原因と結果の関係でとらえ，その社会的意味を考えている。 ○ 国民の食料を確保するわが国の水産業の意味や自然環境との関連について考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水産業の様子やかかえる問題を，写真，地図，グラフなどを活用して具体的に調べている。 ○ 水産業に従事している人々の工夫や努力を，資料を活用して具体的に調べている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 概念的知識「生産量の確保，利益の追求」を発見している。 ○ 水産業に従事している人々の工夫や努力，漁港と消費地を結ぶ運輸の働きを理解している。

7 単元指導計画（全10時間）

	事例	時数	学習活動	評価規準				評価規準	評価方法		
				関	思	技	知				
生産量の確保、利益の追求	技術改良、加工・流通の仕組みの整備・確立	身の回りの水産物	1	・水産業について，自分たちの生活とかかわらせて，調べようとする意欲を持つ。	◎				・水産加工品とくらしとのかかわりをとらえ，水産業の学習問題をつかんでいる。	ノート	
		沖合遠洋漁業 八戸港	2	・八戸港の水揚げ量が多い理由を調べ，水揚げ量が多い漁港の条件を考える。			◎		・八戸港の様子から水揚げ量が多い漁港の条件を調べている。	行動観察 ノート	
			3	・漁獲高が減っている理由を調べる中で，海の環境変化や漁獲量制限などの国際問題に気付く。				◎	・八戸港では，漁獲量を上げるために，技術を改良したり，施設を整えたりしていることを理解している。	ノート 発表	
		沿岸漁業 明石港	4	・明石港の沿岸漁業の様子を調べ，水産物の流通のしくみを理解する。				◎	・明石港では，生産量を増やすため，漁法の改良や流通の仕組みの整備を行っていることを理解している。	ノート	
			広島湾のかき養殖	5	・広島湾のかき養殖が盛んな理由を調べる。			◎		・広島湾のかき養殖が盛んな理由を意欲的に調べている。	行動観察
	資源の保護・育成、環境保全	大崎上島の海洋牧場		6	・かき生産者は，広島ブランドの確立，発展を目指して生産や販売の工夫をしていることに気付く。		◎			・生産者が，新ブランド開発や広報・植林活動を進めている理由を考えている。	発表 ノート
			7	・海洋牧場に見学に行く。	◎				・意欲的に海洋牧場を見学し，まとめている。	行動観察	
	町づくり・人づくり	水産業に携わる人々	9	8	・水産資源の保護育成に取り組んでいることに気づき，育てる漁業のまとめをする。		◎			・生産者が，魚を放流したり，海の環境保全に取り組んだりしている理由を考えている。	発表 ノート
					・水産業に携わる人々は，新たな消費の拡大や後継者育成のために努力していることに気付く。		◎			・生産者が，漁港づくりや人づくりの取り組みを進めている理由を考えている。	発表 ノート

日本の水産業のまとめ	10	・日本の水産業のまとめをする。			◎	・水産業に携わる人々は、利益を上げるために、さまざまな工夫や努力をしていることを理解している。	発表 ノート
------------	----	-----------------	--	--	---	---	-----------

8 指導細案

【第1時間目】

- ・身の回りには、水産加工品が多く、原料の魚は、外国からも来ていることを理解する。
- ・漁獲量減少や輸入増による水産業の問題点から、水産業の学習問題をつかむ。

過程	教師による発問・指示	学習活動	資料	児童の反応（習得させたい知識）と評価（★）
導入	○魚クイズをしよう。 ○寿司のネタで好きなのは何ですか。 ○寿司以外には、どんな水産物があったかな。 ○身の回りには、加工されたものが、たくさんあるね。	T：資料提示 T：発問する P：答える T：発問する P：答える	・魚の絵 ・寿司の写真 ・水産加工品 ・水産物調べのプリント	・マグロ、えび、いか。 ・魚の切り身。冷凍食品。かまぼこ。寿司のネタも。 ・加工されたものがたくさんあるね。
展開	○水産物は、どこから来ていましたか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">国内だけで魚は足りているのだろうか。</div> ○足りないものは、どうするの。 ○日本の漁獲量は、どうなっているだろう。（遠洋・沖合漁業について説明する。） ○どうして減っているのだろう。	T：発問する P：答える T：発問する T：説明する P：答える T：発問する P：予想する	・おもな魚の輸入先 ・食料自給率の推移 ・おもな輸入水産物 ・漁業別漁獲量	・産地がかいてあったよ。日本だけでなく外国からも来ていたよ。 ・水産物の自給率は、59%だよ。国内だけでは足りないということだよね。 ・漁獲量が大きく減っているね。 ・魚が少なくなった。 ・働く人が減った。
終結	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">これから、魚を食べられるだろうか。日本の水産業の役割とは、何だろう。</div> ○日本の水産業の様子を学習していこう。	T：課題提示 T：説明する		・これからの学習で、分かるといいね。 ★水産加工品とくらしとのかかわりをとらえ、水産業の学習問題をつかんでいる。（ノート）

【第2時間目】

- ・八戸港の水揚げ量が多い理由を調べ、水揚げ量が多い漁港の条件を考える。

過程	教師による発問・指示	学習活動	資料	児童の反応（習得させたい知識）と評価（★）
導入	○水揚げ量が多い漁港は、どこだろう。	T：発問する P：答える	・おもな漁港の水揚げ量と海流の様子	・焼津、銚子、八戸が多いね。港によって、生鮮魚と冷凍魚の割合が違うね。
展開	○なぜ、八戸港は、水揚げ量が多いのだろう。これらの資料から考えよう。 ○漁港の周りには、どんな施設があるだろう。それは、何のためにあるのだろう。 ○どんな魚を、どのようにとっているのだろう。	T：発問する P：答える T：資料提示 T：発問する P：答える T：発問する T：資料提示	・おもな漁港の水揚げ量と海流の様子 ・八戸港の様子 ・八戸港の水揚げの内訳	・八戸の沖合には、暖流の黒潮（日本海流）と寒流の親潮（千島海流）がぶつかる潮目がある。 ・冷凍して保存する施設や、魚を加工する施設が集まっている。県外からも、多くの船がやってくる。 ・魚市場が、三つもある。近くには、卸売市場もある。 ★八戸港の様子が分かる資料から水揚げ量が多い漁港の条件を調べている。（行動観察、ノート）

		P：答える	・「イカ釣り漁」「巻き網漁」	・いか、いわし、サバが多い。 ・イカ釣り漁は、外国まで行き、夜に漁をしているんだね。とれたいかは、冷凍庫で保存され、日本に運ばれる。だから、八戸港は、冷凍魚の割合が高いんだね。 ・近海では、イワシやサバを巻き網漁でとっているよ。魚群探知機を使い、協力して漁をしているね。
終結	○水揚げ量が多い漁港の条件には、何があるだろう。そういう条件があると、なぜいいのか、まとめよう。	T：発問する P：答える	・八戸港の様子 ・流通のしくみ	・自然条件や港の周りの施設が充実していることが必要だね。 ・施設が整っていれば、たくさん魚がとれるし、加工品もたくさんできるね。

【第3時間目】

・八戸港における問題について調べ、八戸港では、漁獲量を上げるために、技術を改良したり、施設を整えたりしていることを理解する。

過程	教師による発問・指示	学習活動	資料	児童の反応（習得させたい知識）と評価（★）
導入	○なぜ、八戸港の水揚げ量が多いかが分かったけれど、何か問題はないのだろうか。	T：発問する P：予想する		・八戸港も、水揚げ量が減ってきているのかな。
展開	○なぜ、八戸港の水揚げ量が減っているのだろう。 ○海の環境も、昔と比べて、変わってきています。 ○漁をする人たちは、どうしただろう。 ○日本のことだけ考えていてはだめなんだね。外国との関係も考えないといけないね。魚をとりすぎないようにしているんだね。	T：資料提示 T：発問する P：答える T：説明する T：発問する P：答える T：説明する	・八戸港の水揚げ量の移り変わり ・イカ釣り漁場と200海里水域 ・日本海でとれるズワイガニの量	・水揚げ量が年々減ってきている。 ・外国の漁船が海岸から200海里以内の海でとることができる魚の種類や量を制限し始めた。 ・魚のとれる量がとても減っている。いわしは、ほとんどとれなくなった。 ・イカ釣り漁では、外国といかをとる量や期間などを話し合ってから、漁をしている。 ・1年間にとる魚の量を制限したり、休漁期間を決めたりしている。
終結	○八戸港の学習のまとめをしよう。 ◎なぜ、八戸港では、港や水産加工場などの施設を整えているのだろう。まとめてみよう。	T：発問する P：答える		・漁獲量や水産加工品の生産量をあげるため。 ★八戸港では、漁獲量を上げるために、技術を改良したり、施設を整えたりしていることを理解している。（ノート、発表）

【第4時間目】

・八戸港の学習を生かし、明石港では、生産量を増やすため、漁法の改良や流通の仕組みの整備を行っていることを理解する。

過程	教師による発問・指示	学習活動	資料	児童の反応（習得させたい知識）と評価（★）
導入	○太平洋岸の八戸港の勉強をしたけれど、瀬戸内海の明石港での水産業はどんな様子だろう。八戸港と同じだろうか。	T：発問する P：答える		・違うと思う。 ・取れる魚が違うのでは。とり方も違うかも。 ・海の様子が違うのでは。

<p>展開</p>	<p>○明石港を地図で確認しよう。 ○沿岸漁業について説明する。 ○なぜ、明石港は、沿岸漁業がさかんなのだろう。 ○藻場が、魚の産卵場所やえさ場、隠れ場所になっているんだ。水をきれいにする役割もあるんだね。 ○どのような魚をどのようにとっているのだろう。</p> <p>○水揚げされた魚は、どこに行くのだろう。</p> <p>○その後は、どこに行くのだろう。 ○魚が家庭に届くまでを確認しよう。</p> <p>○明石港の水産業のまとめをしよう。 ◎なぜ、明石港では、とる魚に合わせた漁法をしたり、魚を新鮮に早く届けたりしているのだろう。</p>	<p>T：説明する T：発問する P：答える T：説明する</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：答える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳 ・漁をしている人の話 ・藻場や干潟の役割 ・「さまざまな漁法」 ・「魚市場でのせりの様子」 ・魚が家庭に届くまで ・魚の流れ ・魚市場で働いている人の話 ・交通機関別食料の輸送量 ・運転手さんの話 	<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県にあり、瀬戸内海に面しているね。 ・瀬戸内海だから、波も穏やかだ。 ・魚の産卵場所やえさ場になっている。 ・藻場は、大切なんだね。 ・一本釣り漁、底引き網漁、たこつぼ漁など魚に合わせたいろいろな漁法がある。 ・小さい魚をとったり、売ったりすることを禁止している。 ・生きたまま、港の魚市場に運ばれる。 ・魚市場で、せりにかけられ、魚の値段を決める。 ・たくさんの人が関わっているんだな。 ・新鮮な魚を早く届けたいと願っているんだな。 ・水産物は、自動車（トラック）が多いね。 ・コンテナで運ぶと便利だね。 ・高速道路が日本全国を通っているね。 ・新鮮なものを早く届けようとしているんだね。 ・漁獲量をあげるため。消費者に早く新鮮なものを届けるため。
<p>終結</p>	<p>○八戸港と明石港で似ているところは何だろう。</p> <p>○とる漁業のまとめをしよう。 ◎なぜ、水産業で働く人たちは、魚をとる技術を改良したり、流通の仕組みを整えたりしているのだろう。</p>	<p>T：発問する P：答える</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの土地の自然条件を生かしていた。 ・魚に合わせた漁法をしていた。 ・魚群探知機などの機械を使う。 ・魚をとる量を制限していた。 ・流通のしくみを整えていた。 ・生産量を増やし、消費者に安定して、水産物を届けようとしている。そうすることで利益を上げる。 ★明石港では、生産量を増やすため、漁法の改良や流通の仕組みの整備を行っていることを理解している。(ノート)

【第5時間目】

・広島湾でかき養殖がさかんな理由を考える。今までの学習から、とる漁業と育てる漁業の違いを考える。

過程	教師による発問・指示	学習活動	資料	児童の反応（習得させたい知識）と評価（★）
<p>導入</p>	<p>○広島県の水産業は、どうだろう。</p> <p>○広島県のかき養殖の生産量は、どれくらいだろう。</p> <p>○養殖漁業について説明する。</p>	<p>T：発問する P：答える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中国地方の魚 ・県別の生産量 ・漁業生産額の魚類別構成比 	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸内海だから、明石と似ているかな。 ・広島といえば、かきだよな。 ・広島県は、かきの生産量日本一だね。 ・広島は、養殖が盛んで、全体の54%を占めているね。

展開	○広島県のどこで、かき養殖が行われているのだろう。 ○なぜ、広島湾でかき養殖がさかんなのだろう。	T：発問する P：答える T：発問する P：答える	・かきいかだの場所（地図） ・広島県地図 ・かき養殖がさかんな理由	・広島湾周辺が多いね。 ・島に囲まれ、波が穏やかだから、筏が壊れにくい。 ・海水の温度や塩分の濃度がちょうどいい。 ・広島湾では、太田川から運ばれる豊かな栄養分によって、かきのえさになる植物プランクトンがよく育つ。 ・地形条件、自然条件を生かしているんだね。 ★広島湾のかき養殖が盛んな理由を意欲的に調べている。（行動観察） ・多くの人が携わっているね。 ・たくさんの時間と手間がかかるよ。
	○広島かきは、どのようにできるのだろう。	T：発問する P：予想する T：説明する	・採苗から収穫、出荷まで	
終結	○今までの八戸や明石のとる漁業と、何が違うのだろう。何かいいことがあるのだろうか。	T：発問する P：答える	・マダイの生存率	・育てとる。 ・確実に収穫できる。 ・計画的に生産できる。 ・利益を上げることができる。

【第6時間目】

・かき生産者は、収穫量を増やし、利益を上げるために、新ブランド開発や広報・植林活動を進めていることを理解する。

過程	教師による発問・指示	学習活動	資料	児童の反応（習得させたい知識と評価（★））
導入	○魚にも旬があるんだよ。昔から日本人は、食べ物で季節を感じていたんですね。 ○かきの旬は、いつですか。	T：説明する T：発問する P：答える	・旬の魚	・知らなかった。 ・かきは、冬によく食べるよ。
展開	○最近では、夏にもかきが食べられます。それは、なぜでしょう。 ○それは、江田島市で養殖されたものです。 ○こんなかきです。今までのかきと何が違うかな。 ○育て方に秘密があります。実は、このように育てています。 ○このような育て方で、たくさんできますか。 ○では、たくさん育てられないのに、なぜ、新しい品種のかきを育てて、売ろうとしているのだろう。 ○これを見てください。何をしているのでしょうか。 ◎なぜ、かき祭りをしたり、植林活動をしたりしているの	T：発問する P：予想する T：説明する T：発問する P：予想する T：発問する P：答える T：写真提示 P：答える T：発問する P：答える	・江田島市の位置（地図） ・江田島の一粒かき ・むき身の重さ ・一粒かきの育て方 ・かきの値段 ・かき祭りのチラシ ・植林活動の様子	・新しいかきを開発した。 ・何か特別な技術を使っている。 ・普通のかきより大きいね。 ・むき身の重さも全然違うよ。 ・一粒ずつ育てるんだ。子どもを産まないから、早く大きくなるんだね。 ・かごの中で育てるんだ。 ・普通の作り方より、手間がかかるね。 ・たくさんは、育てられない。 ・普通のかきとは違うことをアピールしたい。 ・たくさん売りたい。 ・よりもうけのいいものを作りたい。 ・お祭りをしているよ。 ・漁師の人が、山に木を植えているよ。 ・もっとかきを食べてもらいたい。

	だろう。			<ul style="list-style-type: none"> ・たくさん売りたいから。 ・山に木を植えて、プランクトンを増やそうとしているんだ。そうすれば、またかきが育つね。
終結	<ul style="list-style-type: none"> ○広島湾，江田島市のかきについてまとめをしよう。 ○なぜ，新品種の開発やかき祭り，植林活動をしているのでしょうか。 			<ul style="list-style-type: none"> ・広島のかきを有名にしたい。 ・ずっとかきを収穫していきたい。これからのことを考えている。 ・安定した収穫量を確保するため。そうすれば利益が上がる。 ・他にはないものを作り，利益をあげるため。 <p>★生産者が，新ブランド開発や広報・植林活動を進めている理由を考えている。（発表，ノート）</p>

【第7時間目】

・海洋牧場，栽培漁業について知り，大崎上島の海洋牧場を見学する。

過程	教師による発問・指示	学習活動	資料	児童の反応（習得させたい知識）と評価（★）
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○大崎上島の水産業は，どうでしょう。木江の海洋牧場について調べよう。海洋牧場について説明する。 ○海洋牧場のような漁業を栽培漁業と言います。 	T：説明する	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋牧場の絵 	<ul style="list-style-type: none"> ・稚魚を育てて，海に放流するんだね。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○しっかり，見たり，聞いたりしよう。 ○メモを取ろう。 	P：見学する	<ul style="list-style-type: none"> ・見学のしおり 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな水槽だね。 ・ヒラメを育てているよ。 ・沖の筏でも育てるよ。 ・沖の黄色い機械でえさをやっている。 ・稚魚の様子に気を配っているんだね。 <p>★意欲的に海洋牧場を見学し，まとめている。（行動観察）</p>
終結	○見学のまとめをしよう。疑問はないかな。		<ul style="list-style-type: none"> ・見学のしおり 	<ul style="list-style-type: none"> ・また，大崎の海に帰ってくるのかな。

【第8時間目】

・生産者は，生産量を増やし，利益を上げるために，魚を放流したり，海の環境保全に取り組んだりしていることを理解する。

過程	教師による発問・指示	学習活動	資料	児童の反応（習得させたい知識）と評価（★）
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○今日は，見学してきたことをもとに栽培漁業について考えよう。 ○養殖漁業と栽培漁業では，何がちがいますか。 	T：説明する T：発問する P：答える	<ul style="list-style-type: none"> ・見学のしおり ・栽培漁業のしくみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・養殖漁業は，育てたものをとる。栽培漁業は，海へ放して育てたものをとる。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○海へ放した魚は，全部とれるのだろうか。 ◎なぜ，とれるかどうか分からないのに，高級な魚を大きくなるまで育てて，放流するのだろうか。 ○大崎上島以外でも，このような栽培漁業が行われています。 ○漁師さんたちは，海の掃除をしていると言っていたね。 	T：発問する P：予想する T：説明する T：発問する P：答える T：説明する T：発問する P：答える T：発問する	<ul style="list-style-type: none"> ・放流した後，漁獲される数 ・天然ものと養殖物の魚の値段 ・全国の栽培漁業センター 	<ul style="list-style-type: none"> ・えっ，これだけしか取れないの。 ・魚を殖やすため。 ・漁獲量を増やそうとしている。 ・海の環境をよくする。 ・海がきれいになれば，魚がすみやすくなる。 ・魚が，たくさんとれる。

	なぜ、海の掃除をするのだろう。 ○港に、魚釣りをしてはいけないという看板があるのは、なぜだろう。	P：答える	・海釣り禁止の看板の写真	・小さい魚は、とらない。大きくなってからとる。 ・環境をよくしようとしている。 ・環境がよくなれば、魚がたくさんとれる。
終結	◎なぜ、魚をふやしたり、海の環境をよくしたりしようとするか、まとめよう。	T：発問する P：答える		・生産量を増やすために、魚を育てて海に放したり、海の環境をよくしたりしている。 ★生産者が、魚を放流したり、海の環境保全に取り組んだりしている理由を考えている。(発表、ノート)

【第9時間目】

・日本の水産業の問題点を調べ、水産業に携わる人々は、利益を上げるために漁港づくりや人づくりの取り組みを進めていることを理解する。

過程	教師による発問・指示	学習活動	資料	児童の反応（習得させたい知識）と評価（★）
導入	○今まで学習してきた中で、日本の水産業にはどんな問題があっただろう。資料を見て、思い出そう。	T：発問する P：答える	・漁業別漁獲量の移り変わり ・水産物の輸入量の移り変わり	・漁獲量が、減っている。 ・輸入量が、増加している。
展開	○漁業で働く人の数は、どうなっているのだろう。 ○なぜ、減っているのだろう。 ○このままでいいのだろうか。もし、水産業で働く人がいなくなったら、どうなりますか。 ○水産業で働く人々は、どうしただろう。 ○最近の漁港の様子を見てみよう。なぜ、漁港では、魚祭りをしたり、漁港の近くに大きな市場を作ったりするのだろう。 ○漁港、漁村には、こんな役割があります。この資料からも考えてみよう。	T：資料提示 T：発問する P：答える T：発問する P：予想する T：資料提示 T：発問する P：答える T：説明する	・漁業で働く人の数の移り変わり ・「漁師になる」のホームページ ・舞鶴港魚祭りの写真 ・下関の唐戸市場の写真 ・水産業・漁村の役割	・働く人の数が、どんどん減ってきている。 ・収入が少ない。仕事がきつい。 ・燃料が高い。高齢化。 ・魚が食べられなくなる。 ・外国人を雇う。 ・若い人に、漁師になってもらうための取り組みをしている。 ・新鮮な魚が買える。食べられる。 ・漁港に来てもらって、魚をたくさん買ってほしい。 ・魚のことをもっと知ってほしい。漁業をもっと身近に感じて、漁業のことをもっと知ってほしい。
終結	◎なぜ、水産業で働く人々は、漁港や人づくりを進めているのだろう。まとめよう。	T：発問する P：答える		・消費者と生産者の関係を築くため。 ・たくさん魚を買ってもらい、利益を得るため。 ・後継者を育てて、水産物を消費者に安定して届けられるようにするため。 ★生産者が、漁港づくりや人づくりの取り組みを進めている理由を考えている。(発表、ノート)

【第10時間目】

- ・水産業に携わる人々は、利益を上げるためにさまざまな工夫や努力をしていることを理解する。
- ・水産業が国民の生活に果たしている役割を理解し、これからの水産業を考える。

過程	教師による発問・指示	学習活動	資料	児童の反応（習得させたい知識）と評価（★）
導入	○今日は、日本の水産業のまとめをしていきましょう。この学習の前に、日本の農業を勉強しましたね。農業と水産業、似ているところはないかな。	T：発問する P：答える		<ul style="list-style-type: none"> ・農業も水産業も、自然を相手にしている。 ・地形や自然条件を生かして、生産活動が行われている。 ・いろいろな工夫や努力をしていた。
展開	<p>○4つの事例で学習を進めてきましたが、水産業で働く人たちの工夫や努力は、どんなものでしたか。</p> <p>○江田島かきの工夫を思い出そう。</p> <p>◎なぜ、水産業で働く人たちは、生産量を増やしたり、新しいブランドを作ったり、町づくりや人づくりをしたりする工夫や努力をするのだろうか。</p> <p>◎我が国の水産業は、国民の生活にどんな役割を果たしているのでしょうか。</p>	<p>T：発問する P：答える</p> <p>T：説明する</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：答える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4つの事例カード ・新品種のかきの写真 	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさん魚をとる工夫。 ・新鮮なものを早く届ける工夫。 ・魚を増やす工夫。 ・魚を守る工夫。 ・どれも、生産量を増やすための工夫や努力だった。 ・よりもうかるものを作る工夫。 江田島のかきのように、たくさん作らなくても、他にないものを作ればもうけることができる。 ・自分たちの生活がかかっている。 ・生産量を増やしたり、他にはないものを作ったりして、利益をあげたい。 ・後継者を育て、水産業を続けていき、利益を上げたい。 ・国民の食糧を確保するという重要な役割がある。 ★水産業に携わる人々は、利益を上げるために、さまざまな工夫や努力をしていることを理解している。（発表、ノート）
終結	○写真を見て、これからの日本の水産業のどんな姿が見えてきますか。	T：資料提示 T：発問する P：考える	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとの海の写真 ・働く人の写真 	<ul style="list-style-type: none"> ・魚のたくさんいる豊かな海にしたい。 ・おいしい魚を食べ続けたい。

